

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300690
法人名	社会福祉法人 舞鶴会
事業所名	グループホームまいづる
所在地	鹿屋市西大手町11-11 (電話) 0994-52-1666
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年11月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族の皆さんに、アットホームな雰囲気を感じていただけるよう、スタッフ一同、明るく元気に接するよう心掛けています。グループホームまいづるの理念のもと、入居者様がいつまでもご自分らしく、ご自分のペースで安心して日常生活を過ごしていただけるような環境作りを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは1ユニットで運営されており、開設当所の場所からほど近い位置に平成26年に新築移転をしている。新しいホームは職員の意見を随所に取り入れ、見守りを重視し、利用者の安全の確保と暮らし易さを最優先に考えて造られている。利便性の高い賑やかな市街地にありながらも、日常の生活は静かで穏やかな環境が保たれている。

町内会の加入も早く、地域との繋がりを大切にしている。回覧板の活用や運営推進会議を通し、地域情報の収集やホームの情報発信も積極的に行っている。利用者は地域の一員として、町内会主催の恒例行事や生き生きサロンなどへ参加しており、楽しみとなっている。

幅広い年代層の職員がおり、一日の始まりは「明るい挨拶から」とする理念に見られる管理者の想いを共有し、職員の明るさとチームワークの良さは運営にも大いに反映されている。

年間を通して花見や七夕祭り、運動会など多彩な行事や外出が実施されており、季節を感じ五感の刺激を受けながら利用者はその人らしく生き甲斐を感じられる生活をしている。その様子は、利用者の穏やかで安心した表情からも見て取れる。

開設より12年が経過し、地域の一員として徐々に受け入れられてきており、今後、地域貢献に向け、更なる取り組みも視野に入れており、新たな展開が楽しみなグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援を行うことができるように、職員間で互いに気付いたこと等を語り合える環境づくりを行い、実践につなげている。	開設当所からの理念を根幹に職員は年2回、目標を立て、自己評価による振り返りの機会を持っている。理念は常に目に付く場所に掲示し、全員が、明るく、元気よくをモットーに理念に繋げるケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会主催の行事に参加している。町内会長さんを主として、連携を図っている。また、地域の学童との交流や中学校の職場体験の受入等も積極的に実施している。	町内会の加入により、回覧板の活用や町内会長とも懇意な関係性がある。緊急時の地域との協力体制も築いており、地域行事や生き生きサロンへの参加、ホーム行事に招く地域の子供達との交流など、折に触れ地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	まだまだ地域の方々に向けての貢献はできていない。施設内で開催する研修会や救命救急等の講習会などに地域の方々も参加出来るようにしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回偶数月の第3水曜日に開催している。事業所の取り組みを報告したり、地域住民代表やご家族の意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	家族、行政、地区代表、他の関係者が参加し2ヶ月に1回の定期開催である。議題はその都度、設けホームの現情報告の他、活発な意見交換が行われ、開催時間がオーバーするなど毎回、充実した会議になっている。今後のホームの取り組みとして地域貢献へのアドバイスを受け課題として挙げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂く等協力関係を築いている。	利用者を取り巻く困難事例の相談でアドバイスを受けている。生活保護担当者の来訪もあり、運営推進会議への出席や事故報告など、常時、連携を取り易く良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置。身体拘束に関する研修会にも参加している。入居者様の状況を常に観察し、見守りを重視している。	入居時に家族にも利用者の身体状況やリスクについて詳しく説明をしている。職員の連携で見守りを重視し、抑制のない自由な暮らしを支援している。外部、内部の研修に参加し職員は言葉を含めた身体拘束の弊害を正しく理解している。管理者は現場での気付きはその都度注意し、再確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置。日々の生活の中で、声掛けや支援の方法について互いに声を掛け合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通じて、対応先の把握や該当要件等を理解し、速やかに対応ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際、契約書、重要事項説明書等、入退居に関する重要事項の説明や緊急時の対応の説明を行い、ご理解を得た上で、入居の手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族が相談や話しをしやすい環境づくりを行っている。年2回の家族会（9月・3月）や2ヶ月に1回の運営推進会議に家族代表として交代で参加していただき、意見要望を述べてもらい、運営に反映させている。	面会時や、年2回の家族会を意見要望の聞き取りの機会と捉え、出された課題は職員で話し合い、改善に繋げている。家族の心理や行動を理解し丁寧な対応を心掛けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や随時意見を言える環境作りを心掛けている。連絡ノートを活用したり、朝礼で申し送りを行なうことで、情報共有している。	開設当所からの職員も残っており、明るい雰囲気やチームワークや連携がとれている様子が伝わって来る。管理者とは何でも相談し易い関係が出来ており、排泄に関連したパット使用の統一も職員から出された意見で改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人顧問や本部園長が施設に来所し、全職員個別に面接を行い、職場環境改善や職員の意見要望等を聞いてもらう機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの経験年数や必要性に応じた内容の研修会に参加している。研修に参加したスタッフは、報告書の提出を行っている。全職員が閲覧を行い、情報の共有ができるように改善していきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームと互いの運営推進会議に出席したり、情報の交換や質問をしたり等の関係を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人様と面談を行い、不安なことや求めていることを理解し、受け止めるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にはご家族とも面談を行い、ご家族の本心や生活に対する希望を聞き、本人様同様、ご家族の支援も行うことができるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様、ご家族の思いを聴き、現状の確認・把握を行い、改善に向けた最善の支援の内容や方法の提案を行うように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や性格等の把握を行い、本人様の希望に沿った支援と関係作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族のお互いが、情報共有をしながら、入居者様と一緒に支えていくように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を頂きながら、ご家族以外の知人や親戚の面会や行き慣れた店での買い物等の支援を行っている。	以前の職場の知人が面会に来る利用者もいる。地域の生き生きサロンや病院受診の際に、馴染みの人に会う機会もあり、会話を交わしている。遠方の家族とは手紙や電話で連絡を取り、関係が途切れないよう、支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が上手くいくように、レクリエーションや創作活動にスタッフが一緒に取り組み調整役になり、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町でお会いしたときに、ご家族と情報交換をして、様子を伺ったり、ご家族の情報も伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、本人本位の支援を行うことができるように努めている。	半数以上が思いや意向を表現できている。失語症など困難な場合でも、投げかけをし、表情、所作からの観察で可能な限り、個々の想いの把握に努め本人本位の支援が出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞くことができなかった情報は、入所後、本人様との会話から引き出したり、ご家族から伺う等、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の自由や意思を尊重し、施設側の都合で束縛することなく対応することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報の共有を図り、現状に適したケアを行うことができるよう計画を作成している。	本人、家族の思いや意向を踏まえ、職員の意見・情報を会議で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。状況の変化に応じて、カンファレンスを行い、現状に即して計画の見直しをしている。職員はプランに目を通し、日々のケアの確認を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方は、職員によりレベルの個人差が大きくある。記録とは何か、記録することがどれだけ大切なことなのか、誰でも読むことができる記録等、記録の重要性を理解して書くことができるように改善する必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報を収集して、適した支援を行うことができるように努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・町内会長・地域店舗オーナーに運営推進会議に参加していただき、意見交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりに合ったかかりつけ医の受診支援を行っている。主治医と情報共有を図ることができるように努めている。	病院受診は基本、家族にお願いしているが、出来ない場合はホームで柔軟に対応している。結果はその都度、報告し診療内容の共有を図れるように努めている。訪問看護ステーションとの連携で週1回、看護師による密な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと施設側が契約を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院先の主治医又は看護師、ソーシャルワーカーと連携し、早期退院に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時の面談の時点で、当施設でできる範囲の支援内容について説明を行い、日頃からご家族とどのような方針で支援を行ったらよいか話をしている。</p>	<p>段階に応じ、主治医の判断を仰ぎ、家族と方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。これまでに看取りの経験もあり、重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、家族に説明同意を得ている。今後も看取りの希望がある事から、職員の研修や教育を充実する意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命の講習を受講し、連絡網や対応手順を掲示している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練の実施、地域住民の協力体制の整備を行っている。自動通報装置、スプリンクラーを設置している。</p>	<p>法令に依り、昼夜間想定避難訓練を年2回行っている。避難までの時間測定や避難時の地域住民の役割分担まで決めた具体的な訓練を行っており、地域との協力体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で気付いた不適切な対応や言葉遣いは注意を行ない、本人様の気持ちを尊重し、さりげない声掛け、言葉掛かけを心掛けている。	名前の呼び方は「さん」付けで統一している。排泄時の誘導など羞恥心への配慮は特に気を付け、生活全般を通して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の扱いも適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で、思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるが、一人ひとりのペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に理美容を利用している。本人様やご家族の要望を伺う。季節に合わせた服装やお気に入りのもので選択できるように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を主に取り入れるように工夫している。誕生日には、手作りケーキ、季節の行事にはそれに合わせたメニュー（おはぎやうなぎ、巻寿司など）季節感を感じられるように工夫している。	調理専任の職員が配置されている。その日の材料でバランスの良い家庭的な食事が提供されている。刻みやミキサーなど個々に応じた形態で嚥下や咀嚼に配慮している。年間を通して多彩な行事食や外食も実施されており、利用者は存分に食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態の工夫や水分摂取量の制限、把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力に合わせ、声掛け、見守り、介助を行っている。夕食後、義歯は洗浄剤を使用して洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。声掛け等を行い、失敗の回数を減らしていけるように心掛けている。尿取パットの種類等、個々にあわせた検討を随時行っている。	中夜間共に殆どの利用者がトイレでの排泄に向けた支援をしている。放尿や便失禁のあった利用者も職員の根気強い誘導や連携で改善されている。パットの使い分けや、失敗の回数を減らすことで家族の経費の軽減にも貢献している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時に牛乳を提供している。食事においても、繊維質の多い食事の工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴。概ね時間帯は決まっているが、本人様の体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合には無理強いせずに時間をずらして声掛けを行っている。	新築移転の際に利用者の重度化も視野に入れ、個浴とは別に特殊浴槽を完備している。異性介助への配慮や季節に応じた入浴剤、職員との会話など、入浴が楽しみな時間になる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に応じて自由に休息が取れるように支援を行っている。日中は適度な活動を促し、生活リズムを作ることで安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、薬箋はいつでも確認が出来るようにファイルに保管している。誤薬を予防する為に二重体制で名前・日時を確認してから服薬を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて、その方らしく過ごせる役割が持てる場を作り出せるよう努めている。外出、行事等に参加することで気分転換となるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人様の体調、気分に合わせてドライブや散歩等に出掛けている。外出することで、季節感を感じたり、気分転換が図れるように支援を行っている。	近距離の商業施設やコンビニで趣味の本や買い物をする利用者もいる。ホーム周辺の散歩は日常的であり、少人数でのドライブも利用者や職員、その日の状況をみて、可能な限り支援している。花見や外食、恒例の地域行事への参加も実施されており、季節や五感の刺激を肌で感じ取れる様に可能な限り外出の機会を多く持てる様に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からおこずかいとして預かり、施設側で管理を行っている。外出した際は、本人様の欲しい物が買い物できるように支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話や手紙のやり取りを支援している。毎月のまいづる便りの中でも様子をお伝えするようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掲示物は、季節感を感じてもらえるように制作を行っている。</p>	<p>ダイニングは全居室の出入りや日常的な見守りがし易く、安全を重視した造りになっている。くつろぎの畳スペースも設けてあり、季節の採光に配慮し、ソファの位置を替えるなど利用者が、思い思いの場所でゆったり暮らせる工夫をしている。ホーム全体に掃除が行き届き、臭いも無く、清潔な空間で利用者は心地よく過ごせている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂では、気の合った者同士が思い思いに過ごせるよう、席の配置を工夫している。ソファ席やたたみ部屋等、思い思いの場所で過ごしていただけるよう工夫を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使っていた品物やご家族の位牌等を持ってきて頂き、過ごしやすい環境が作れるように支援を行っている。</p>	<p>愛着のあるぬいぐるみや筆筒、趣味の本を置くなどし、個別性の感じ取れる居室になっている。身体状況に応じリスクへの配慮もなされており、安心して過ごせるプライベート空間である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレなど分かりやすい表示を行い、戸惑うことがないように工夫を行っている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない